

六指極短四指以上若無齒者當用灰ト云云今此四指ノ量ヲ三寸トスル事俱舍ニ舒一肘ヲ一尺八寸ト定テ廿四指肘ト云リ然バ四指ハ是三寸ニ當レリ

〔嬉遊笑覽二中一〕楊枝略○中寸法の事僧祇律云極長十六指極短四指とあり今此四指を三寸とす

るを俱舍に一肘を舒て一尺八寸と定めて廿四指肘といへり然れば四指は三寸に當れり最大なるは一尺二寸最小三寸其中は意に任すべしと右は古代に定れる法也今○文政四年○四寸より六寸の間を用ふといへり延寶に遊治郎用る處のやうじ寸法かくの如し○中略古畫を見和の大き同じやうなり

楊枝種類

〔大和本草十二雜木○〕白楊 本草喬木部ニアリ京都四條邊コレヲ牙杖ヤウジニケヅリウル又扇宮ニモコレヲ用ユ故ニハコ柳ト云葉ハ梨ノゴトシ又桐ニ似テ小ナリ實ハ棕ノ實ホドアリ冬熟シテ紅ナ

リ浴外處々ニアリ筑紫ニテハ犬桐ト云葉桐ニ似タレバナリ又木理柳ニ似タリ故ニ葉ハ柳ニ似ズトイヘドモ中華ニテハ白楊ト云京都ニテハハコヤナギト云

〔和漢三才圖會八十三喬木○〕柳略

柳枝 去風消腫止痛作浴湯膏藥牙齒藥又其嫩枝削爲牙杖滌齒最妙

〔和漢三才圖會八十三喬木○〕贅柳 正字未詳

按贅柳生山谷叢生高五六尺葉似白楊葉而花穗與柳無異其木枝皆有縱脹起剝皮如堆文亦似人肌贅故呼曰贅柳木理濃美可以作牙杖

〔人倫訓蒙圖彙五〕楊枝師 打楊枝平楊枝品々あり木は○中加賀國越前よりいづるはこぶある

木なり

〔嬉遊笑覽二中一〕箕山大鑑に楊枝はこぶにて直なるよし房かみたるを用

〔嬉遊笑覽二中一〕こぶとはこぶ柳をいふ也